

携帯電話システムと放送業務用システム間 における干渉実験の状況

(株)NTTドコモ
2013年1月29日

実験内容

- 3.4-3.6GHz帯におけるIMT-A携帯電話システムが、既存無線(放送業務用)システムの周波数と同一チャネル、および隣接チャネル※¹に配置された場合の干渉影響を評価する。
- 実験対象機器と実験組合せ

(与干渉)			IMT-A携帯電話システム			
			基地局		移動局	
			連続波	Burst波	連続波	Burst波
放送業務用システム	音声STL (アナログ方式)	装置A※ ²	○	○	○	○
		装置B※ ²	○	○	○	○
	放送監視制御 (アナログ方式)		○	○	○	○
	音声FPU (アナログ方式)		○	○	○	○

※¹ 隣接チャネルについては、帯域外干渉(感度抑圧)の影響確認のため評価

※² 装置A、Bは、それぞれAM放送、FM放送の中継に利用されている装置であり、音声帯域の周波数特性が異なる

実験の状況

- 放送業務システムの伝送品質(所要S/N, 歪率等)を満たす干渉レベルの評価
 - 音声STL(アナログ)装置A: 一部条件未完了
 - 放送監視制御(アナログ): 一部条件未完了
 - 音声FPU(アナログ): 実施中
 - 音声STL(アナログ)装置B: 実施中

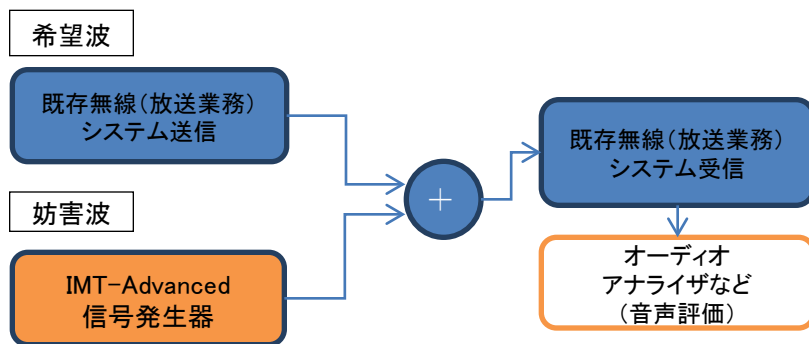


図1: 実験系構成(例)

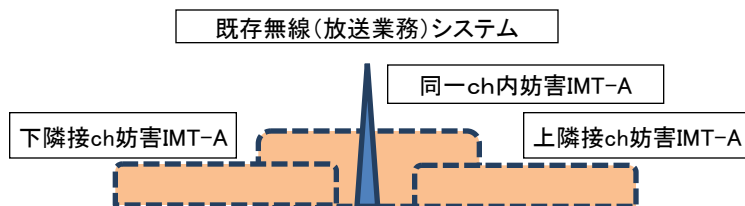


図2: 希望波と妨害波の周波数関係イメージ



図3: 音声STL(アナログ)装置

今後の予定

- 放送業務システムの伝送品質(所要S/N, 歪率等)を満たす干渉レベルの評価
 - 未実施装置・項目を継続実施
- オーディオアナライザを用いた実音声評価
 - 2月に実施予定
- スケジュール

スケジュール	12月	1月	2月	3月
実施内容	音声STL(装置A) S/N評価 放送監視制御 S/N評価	(一部条件) (一部条件) 音声STL(装置B) S/N評価 音声FPU S/N評価	全放送業務システム 実音声評価	